

指定廃棄物処分場対策班だより

表面

第18号

平成28年9月9日発行

詳細調査候補地の
選定結果を「返上」！
その後・・・

昨年9月9日から11日にかけて関東・東北地方を襲った豪雨の影響で、塩谷町寺島入国有林にある指定廃棄物最終処分場詳細調査候補地は、すぐ隣を流れる西荒川の氾濫により冠水しました。

町はこの事態を受け、**環境省**・**自然災害を考慮し**・**自らが定めた**「**自然災害を考慮して避けるべき土地を除外する**」という候補地選定の基本的要件を満たしていないと判断し、昨年12月7日に、詳細調査候補地の選定結果を「返上」いたしました。

これまでも「返上」やその後の経過等については、対策班だよりや広報しおや特別号などにてお知らせしてきましたが、町民の皆様からのお問い合わせ等が未だ少なからずございます。

そこで、本号では、指定廃棄物最終処分場詳細調査候補地の選定結果の返上後の経過について、改めてご説明いたします。

詳細調査候補地選定結果の返上及びその後の経過については、次のような流れになっています。

◇平成27年12月7日
9月の関東・東北豪雨により詳細調査候補地が冠水したことを受け、選定の基本的要件を満たしていないとし、候補地選定結果を返上。

◇平成28年2月15日
環境省から、返上に対する回答書が届く。

◇同日
環境省からの回答書の内容は到底納得できるものではなく、「返上」趣旨を全く理解していないものだったため、町の考えを添えて回答書を環境省に送り返す。

◇現在
前述に対し、環境省からは何の音沙汰も無い状態。

○詳細調査候補地の

「選定結果の返上」

皆様のご承知のとおり、昨年12月に詳細調査候補地の選定結果の返上をいたしました。この「返上」に関して、町では「候補地の返上」ではなく、「**候補地選定結果の返上**」という表現を使っています。

平成26年7月30日の選定以来、町は、詳細調査候補地であることを受け入れたことは一度もありません。選定理由を聞き、その説明や内容が到底納得できるものではなかったため、今日まで反対という立場をとり続けています。

「候補地の返上」という表現では、候補地であることを一度は受け入れて、それを返上するという誤解を受けかねません。

町は、あくまで選定結果を提示されただけであるという認識です。そういった状況により即している「**候補地選定結果の返上**」という表現を使っています。

○「返上」に対する

環境省からの回答

今年2月15日、環境省から返上に対する回答書が届きました。回答書に書かれていた主な内容は次のとおりです。

1. 一部の冠水があったことのみをもって直ちに、詳細調査候補地から除外すべきではない
2. 詳細調査を受け入れていない段階で「返上」と主張されても理解しがたい
3. 塩谷町民の不安や心配にしっかりと答えるために、詳細調査を実施させてほしい

これまでに環境省が繰り返し行ってきた説明をそのまま載せたような回答であり、「返上」を決意した塩谷町民の心情を何ひとつ受け止めていないと感じざるを得ない内容でした。

○環境省からの回答書に 対する町の対応

環境省からの回答書の内容は、返上の趣旨を全く理解していないものであり、とても受け取ることが出来ないかと判断し、町はその日のうちに、受け取ることが出来ない理由及び町の考えを添えて環境省へ返送いたしました。以下はその概要となります。

（環境省）

一部の冠水があったことのみをもって直ちに、詳細調査候補地から除外するべきではない。

【町の考え】

環境省が除外すべきとしている要件である「河川の溢水による冠水」が詳細調査候補地で現実に起こっている。一部であろうが全部であろうが冠水したことは事実であり、環境省が示した要件の中にも、どの程度冠水したら除外するといったことは記載さ

れていない。一部であれ冠水したことは事実であり、それを湾曲させるような回答は理解に苦しむ。

（環境省）

詳細調査を受け入れていない段階で「返上」と主張されても理解しがたい。

【町の考え】

詳細調査を受け入れていない段階での指摘だが、本町が「返上」したのはあくまでも指定廃棄物最終処分場詳細調査候補地の選定結果であって、詳細調査を受け入れる受け入れないという議論以前の話しである。選定結果に「異議あり」のための「返上」である。

（環境省）

塩谷町民の不安や心配にしっかりと答えるために、詳細調査を実施させてほしい。

【町の考え】

本町の町民の不安や心配の原因を誰がつくっているのか原点に立ち返って考えてみてほしい。町民がどのようなことに不安や心配を感じ、住民説明会や詳細調査を受け入れられないのかをこれまで何度も説明してきたはずである。にもかかわらず、その不安や心配を、詳細調査をすることによって払拭できるといふ考えはあまりにも傲慢で身勝手なものである。環境省からの何の歩み寄りもないかぎり、本町との接点は小さくなるばかりである。

※町が環境省へ申し入れた「返上書」、返上に対する環境省からの「回答書」、回答書返送時に添えた「町の考え」につきましては、町ホームページに掲載しております。詳細はそちらをご確認ください。

<http://www.town.shioya.toc/higi.jp/forms/top/top.aspx>

今年2月15日に町の考えを添えて回答書を返送して以来、環境省からは何の反応もありません。

組閣が行われ、8月3日に第3次安倍第2次改造内閣が発足し、環境大臣及び副大臣についても一新されました。それに伴い、新たに就任した伊藤環境副大臣が就任の挨拶のため、9月14日に塩谷町役場を来庁する予定となっております。

その際、返上に関連する一連の動きについて、環境省側から何らかの反応があるのか注目されるところです。